

研究主題

知的障がい教育における教育課程の適切な実施に関する研究（特別支援学校小学部）

—「各教科等を合わせた指導」での目標、内容、方法、学習評価の一体化を通して—

【研究担当者】 長期研修生 武田 夕加里
(所属校 岩手県立花巻清風支援学校)

【この研究に対する問い合わせ先】
TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562
E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

知的障がい教育においては、児童生徒の障がいの状態等に応じた弾力的な教育課程が編成できるようになっており、教科等横断的な視点で展開される効果的な指導形態として、各教科等の全部または一部を合わせた指導（「各教科等を合わせた指導」）を教育課程の中心に据え、生活に密着した学習を行っています。しかし、「各教科等を合わせた指導」を行う場合に、各教科等の目標や内容を意識した単元構想及び授業づくりが漠然としたものになってしまったり、分析的な評価や多面的な評価につながりにくかったりする現状があります。

このような状況を改善するためには、「各教科等を合わせた指導」において、教科等の目標・内容を踏まえた学習活動の視点を示し、指導における重点を明確にする必要があります。その上で、教員が、単元や授業における共通の目標に基づいて評価を共有し、授業の改善につなげていくことが必要と考えました。

本研究は、知的障がい特別支援学校小学部の「各教科等を合わせた指導」において、単元に含まれる各教科等の目標や内容を意識した授業づくりを行い、指導と評価の一体化の継続的な取組を通して、知的障がい教育における教育課程の適切な実施を目指すものです。

II 研究の手立て

知的障がい教育における「教育課程の適切な実施」とは、児童の実態に応じた目標や内容、手立てが明確な授業が実施されることと捉えました。また、学習評価を受けて授業の改善を図り、教育的ニーズに応えることが児童の目標達成につながるものと考えます。

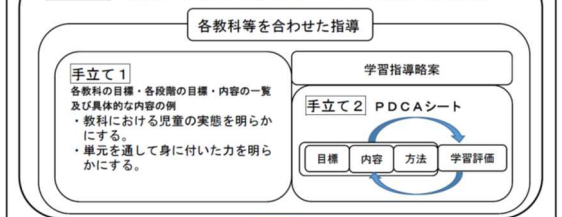
知的障がい特別支援学校においては、教育課程の中心に据えて学習を行っている「各教科等を合わせた指導」で、教科等の目標や内容を踏まえた学習活動の視点を示し、指導における重点を明確にすること、そして、単元や授業における評価を共有し、目標や内容、手立ての見直しを図り、授業の改善につなげることが必要とされています。

本研究では、「教育課程の適切な実施」に向けて、①「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例の作成」、②「P D C A シートの作成」、③「各教科等を合わせた指導での単元構成と授業実践」の3つの手立てを基に研究を進めていくこととしました。

知的障がい教育における教育課程の適切な実施

「各教科等を合わせた指導」での目標・内容・方法・評価の一体化

手立て③「各教科等を合わせた指導」での単元構成と授業実践



手立て② P D C A シートの作成と活用
・単元における目標や関連する教科、具体的な学習内容、支援方法、評価、手立ての改善を記入し、授業を行う職員間で支援や手立て、評価を共有し、授業の改善につなげる。

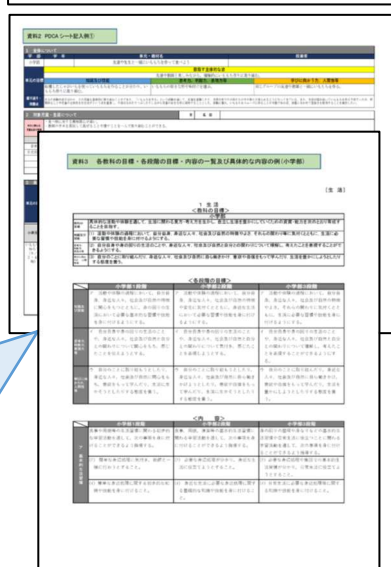
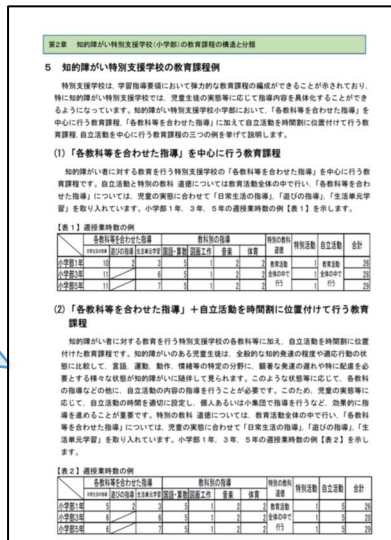
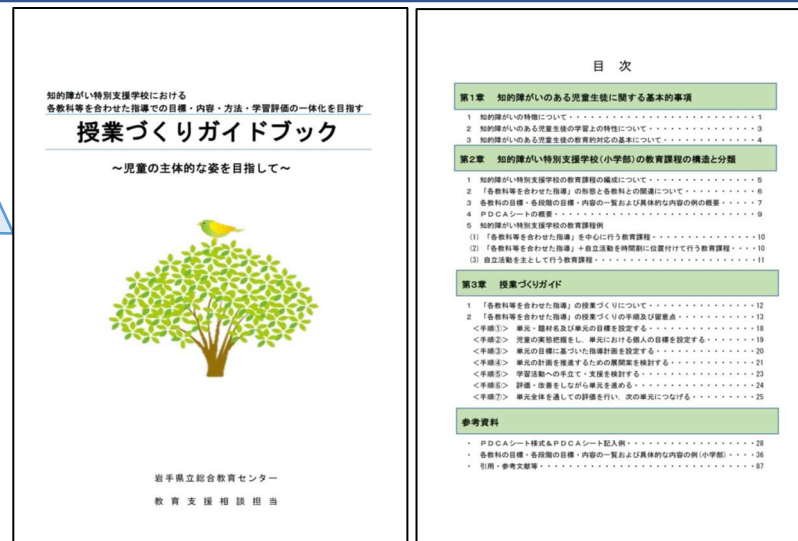
手立て① 各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例の作成
・学習指導要領に示される小学部における各教科の内容を具体化し、教科別、段階別に整理

「各教科等を合わせた指導」における課題
・各教科等の目標や内容が意識されないまま、単元構想や授業づくりが行われている。
・個々の評価に統一性がなく、学習評価の在り方が曖昧になりやすい。
・分析的な評価や多面的な評価につながりにくく、学習指導の改善に生かすことが難しい。

【研究構想図】

III 「授業づくりガイドブック」の構成

授業づくりガイドブックは、「知的障がいのある児童生徒に関する基本的事項」、「知的障がい特別支援学校（小学部）の教育課程の構造と分類」、「授業づくりガイド」の3章と参考資料（P D C A シートの様式& P D C A シートの記入例、各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例（小学部）で構成しています。

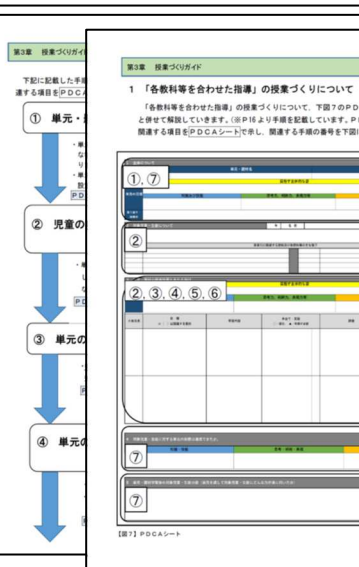


第1章では、知的障がいの特徴や知的障がいのある児童生徒の学習上の特性、教育的対応の基本について記載しています。

第2章では、知的障がい特別支援学校の教育課程例や「具体的な内容の例」及び「P D C A シート」の概要について記載しています。

第3章では、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて、生活単元学習を例に挙げ、手順や留意点等を記載しています。

参考資料として、「P D C A シート」の様式や記入例、「具体的な内容の例」、引用・参考文献を記載しています。



知的障がい教育における「教育課程の適切な実施」に向けて、「各教科等を合わせた指導」において、児童の主体的な姿を目指し、指導と評価を一体化するために、本研究及び「授業づくりガイドブック」を役立てていただければ幸いです。なお、当センターのWebページに、研究内容や授業づくりガイドブックを掲載しておりますので、ご覧ください。

【岩手県立総合教育センター

<https://www1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html>



手立て1 各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例

各教科等を合わせて指導を行う場合に、学習指導要領に示される各教科の内容を具体化して指導内容を設定する必要がありますと考え、改訂された学習指導要領の小学部における各教科の目標や各段階の目標・内容に沿って、「具体的な内容の例」を教科別、段階別に整理しました。

小学部1段階 知識及び技能ア(ア)「身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。」を「日常生活や遊びの中で、声や音のする方に振り向いたり、耳を傾けたりする」など、具体的に例を挙げて、整理しました。



2 国語 ＜教科の目標＞ 小学部		小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
国語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。 (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。 (3)言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。		知識及び技能	知識及び技能	知識及び技能
(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。 (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。 (3)言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。		1 日常生活や遊びの中で、声や音のする方に振り向いたり、耳を傾けたりする。 2 教師の話し掛けに表情や身振りに応じる。 3 教師の話し掛けに音声模倣などによる発声や発語に応じる。	1 教師や友達など、生活の中で関わる様々な人の話し言葉に聞き慣れる。 2 テレビやラジオなどの媒体を通した音声の口調や速度に聞き慣れる。 3 言葉を用いることで、気持ちや要求が相手に伝わるのがわかる。	1 教師や友達との会話や読み聞かせを通して、物事の内容を表す言葉の働きに関心をもつ。 2 背筋を伸ばし、落ち着いた気持ちで話す。 3 唇や舌などを、適切に使って発音する。
言葉の特徴や使い方に関する事項		ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。イ 出来事の内容を思い出すかを感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思いや考えを伝えることができるようにする。ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、国語に関し、思いや考えを伝えたり受け止めることができるようにする。
具体的な内容の例		ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。イ 出来事の内容を思い出すかを感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思いや考えを伝えることができるようにする。ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、国語に関し、思いや考えを伝えたり受け止めることができるようにする。
学習指導要領		ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。イ 出来事の内容を思い出すかを感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思いや考えを伝えることができるようにする。ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、国語に関し、思いや考えを伝えたり受け止めることができるようにする。
具体的な内容の例		ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かるようにする。イ 言葉が事物の内容を表していることを感じる。ウ 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言葉を使うよさを感じる態度を養う。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。イ 出来事の内容を思い出すかを感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思いや考えを伝えることができるようにする。ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、国語に関し、思いや考えを伝えたり受け止めることができるようにする。

手立て3 各教科等を合わせた指導での単元構成と授業実践

本研究では、授業の大きな流れや活動内容の共通理解を図るための学習指導略案と、「各教科等を合わせた指導」における目標、内容、方法、学習評価の一体化を図るための「PDCAシート（手立て2）」を用いて授業実践を行いました。その際に、「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例（手立て1）」を参考に、教科における児童の実態や、単元を通してどんな力が身に付いたのかを明確にしました。

授業実践①

授業実践1 「友達や先生と一緒にいももちを作って食べよう」

時間	主な学習内容
1	いももちについて知ろう
2	いももちづくり①(調理, 試食:ケチャップ味で食べよう)
3	いももちづくり②(調理, 試食:チーズ味で食べよう)
4	いももちづくり③(調理, 試食:みたらし味で食べよう)
5	いももちづくり④(6年生にごちそうしよう, 感想発表)



授業実践1 回目は、収穫した野菜を使用した調理活動をする単元を設定しました。この単元では、児童の好きな「食べる活動」を盛り込みながら、収穫したじゃがいもを使用した調理活動を繰り返し、様々な味のいももちを作ることで、日々の期待感につなげるような計画としました。本単元を通じた考察として、「PDCAシートを職員間で共有することで、授業の改善につなげやすくなること」や、「手立てそのものを評価する欄を設け、○や▲などの記号を使用して評価することで、検討しやすくなること」等が考えられました。

授業実践②

授業実践2 「友達や先生を招待して、いももちパーティーをしよう」

時間	主な学習内容
1	パーティーの準備をしよう①(内容や招待者の選考, 冷凍いももち試食)
2	パーティーの準備をしよう②(係決め, 調理, 試食)
3	ミニいももちパーティーをしよう
4	パーティーの準備をしよう③(調理, 試食)
5	いももちパーティーをしよう



授業実践2 回目は、1回目の実践を発展させた形で単元を設定しました。いももちを作って冷凍する活動とパーティーを交互に行いながら準備を進め、「誰かのためにいももちを作る」という相手意識をもたせながら、期待感や満足感につながるような計画としました。本単元を通じた考察として、「PDCAシートを活用し、前単元での様子や手立て等を振り返ることで、スムーズにPDCAサイクルを回すことが可能になったこと」や、「教科別の指導との関連と、帯状の日課表の有効性について」、「単元名の重要性について」等が考えられました。

手立て2 PDCAシート

「各教科等を合わせた指導」で、単元に含まれる教科の内容を意識したり、指導における重点を明確にしたりして授業を行うこと、教師間で児童への支援方法や評価を共有し、授業の改善につなげるという指導と評価の一体化を図ることができるように、「PDCAシート」を作成しました。

項目1 単元全体に関わる内容

単元名や単元目標の欄を設け、単元について共通理解を図ることができるようにしました。また、単元終了後に良かった点や改善が必要であると思われる点を記入する欄を設け、類似した学習活動を行う際の参考にできるようにしました。

項目2 対象児童の実態に関わる内容

これまでの類似した学習の様子から、単元に関わる実態の部分や、単元に関連する教科と主な様子の欄を設け、単元における児童の実態を明確に捉えることができました。

1 全体について		単元・題材名		授業者	
目指す主体的な姿					
単元目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
2 対象児童・生徒について					
年 名前					
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子					
単元・題材の指導計画と主たる学び					
目指す主体的な姿					
単元目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
小単元名	目標 ○()は関連する教科	学習内容	手立て・支援 ○:適切, ▲:改善が必要	評価	手立て・支援の改善案
4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿(単元を通して対象児童・生徒にどんな力が身に付いたか)					

項目3 指導に関わる内容

単元における児童一人一人の目標や、「合わせた指導」における目標や関連する教科、学習内容、支援方法、評価、手立ての改善欄を設けました。学習内容を記入する際に、「具体的な内容の例」を活用し、段階等を明記することで、教科としての部分を意識できると考えました。

項目4 評価に関わる内容

資質・能力の三つの柱に対応させて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で文章による記述で評価できるようにしました。

項目5 学習の達成状況の振り返りに関わる内容

単元を通して児童にどんな力が育まれたかという視点で教科別に整理することで、「合わせた指導」にどのような教科が含まれているか、単元を通してどのような力が身に付いたのかを明らかにできると考えました。